

留学先国名 : フランス

留学先学校名 : リヨン第三大学

留学期間 : 平成 28 年 8 月 23 日 ~ 平成 28 年 12 月 16 日

私は今回、リヨン第三大学が提供する SELF と呼ばれるプログラムを受講した。SELF は日本ではあまり知られていないため、日本人留学生は私を含めわずか数人だったが、エラスムス留学生をはじめとする様々なバックグラウンドを持つ留学生が集まる国際色豊かなプログラムだった。このプログラムを通して、他国の学生と交流する中で、私が感じ考えたことについてここでは記述したい。

SELF は、教育水準の高いフランスで専門的な知識を身に付けることのできるよう英語で授業を開講すると共に、生活する上で必須となるフランス語、フランス文化の授業を提供するユニークなプログラムである。授業は最大定員が約 30 人という少人数制で行われたにもかかわらず、各クラスには常に 20 ヵ国以上の学生が集まっていた。クラス内で、英語を母語としない学生もネイティブスピーカーに劣らず英語を流暢に話し会話を楽しんでいる様子を見て、英語に自信のなかった私は委縮して自ら進んで会話に参加することができず悔しい思いをした。また、授業が始まった当初は、教授の話もほとんど聞き取れず、常にボイスレコーダーで録音し、帰宅後に何度も再生して理解するのがやっとだった。しかし、学期終了時には、ボイスレコーダーを持ち歩く必要がなくなり、初めて語学力の向上を実感した。さらに、授業に関していえば、SELF では、専攻に縛られず幅広い履修が可能であったため、日本ではあまり学ぶ機会の得られなかったヨーロッパにおけるビジネスなど、以前から興味があった分野を深く掘り下げて学習することができ、自分の将来の展望を広げることができたように思う。

生活面では、留学生との会話は英語、買い物や旅行をする際はフランス語でと言語の切り替えは難しかったが、どちらの言語を使うにしても人との交流は非常に刺激的で、相手を理解し、相手に理解されるということが単純に嬉しかった。日本語学科のフランス人学生とはお互いに自国のことを紹介し合ったり、時にはスラングを教え合ったりしながら交流を楽しむことができた。フランス人の学生たちとは、決して私の留学生サポーターとして出会ったわけではなく、私がリヨンに到着した際に偶然出会い、そこから輪が広がるように不思議な縁で繋がった人ばかりだが、留学前から不安に思っていたアパートの入居作業や銀行口座の開設、携帯電話の SIM カードの買い方など、一人で行うには困難な手続きを進んで手伝ってくれたことは非常に忘れがたい。同時に、日本でも同じように留学生サポーターでなくとも当たり前のように手を差し伸べ、温かく迎え入れることができているか考えさせられる一面でもあった。このように大学外でも考えさせられることは多く、フランスでの日本人に対する評価は想像していたよりも高いことを知り、日本人としてのアイデンティティを初めて強く感じると共に、日本人としての振る舞いを考えることも多々あった。また、一週間の学期間休暇の間に友人とパリを観光した際には、世界各国から観光客が訪れるきらびやかな街に魅了される一方で、世界最大の観光都市に劣らない日本の魅力を再発見することも少なくなかった。その後、他国の人々が日本に対してどのような認識を持ち、日本のどのような部分を美しいと感じるのかについて

興味を持つようになり、帰国するまでの間、たくさんの資料を目にすると同時にもっと日本を知ってもらうにはどのような取り組みが必要か自然と考えるようになった。

今回の留学は、客室乗務員になるという目標を軸に、語学力の向上と専門的な知識の習得を考えて踏み出したものだったが、日本をもっとフランスに負けない観光大国にしたいという新たな視点を切り開くことができたという点でも今回の留学で得たものは大きかった。語学面では、留学当初は、初級レベルと表現するにも満たなかったフランス語のレベルも一段階上がり、気付けば英語で上手く表現できないことをフランス語では伝えられるという場面が増えるようになり、フランス語を学ぶのが楽しくて仕方なくなっていた。読み書きのための言語学習や将来を見据えた言語学習ではなく、会話のための言語学習、ただ友人と もっと話したいという単純な動機から始まる言語学習の方が、はるかに楽しく、モチベーションを維持できることを実感した。次に友人と再会した際には、不自由なく会話できるように、これからも英語、フランス語共に更なる上達を目指したい。また、言語を通して誰かの役に立てる場面があれば、自分の語学力について不安に思うよりも早く、行動に移していきたい。そうすることで、“日本には英語を話してくれる人が少なく、旅行しづらい、どこか冷たい気がする”という印象をほんの少しずつでも変えていくことができればいいと思う。加えて、PR をあまり得意としない国民性を否定するよりも、日本がどの国よりも得意とする可能性のあるインバウンドを温かく迎え入れる環境づくりに貢献していきたいと考える。

これから留学する方に伝えたいことは、どんなに小さなことでも何か目標を持って渡航する方が何倍も充実した留学生活を送ることができるということである。実際、強い意志を持って留学している人の方が、留学の目的が定まっていない人よりも、明らかに語学力の上達が速かった。留学することで視野が広がり、目的が変わることがあるのは、留学の面白さでもあり醍醐味と言えると思うが、まずは何か目標を設定し、悔いの残らない留学にしてほしいと思う。